環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.６８
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043－246-2180
ＦＡＸ 043－246-6969

地球人みんなのエコロジーフェスティバル！！
エコメッセ２００９in ちば
「エコメッセでくらしを変えよう」

エコメッセ 2009in ちば実行委員　横山 清美

2009 年もエコメッセは元気です！
９月６日(日)１日だけの開催ですので、お見逃しないよう来てみて参加してください。

2009 年 9 月 6 日（日）
10:00～17:00
入場無料
会場／幕張メッセ　国際会議場
主催／エコメッセ２００９in ちば
実行委員会

環境パートナーシップちばは、今年も実行委員として、また事務局として活動中です。

今年の内容の特長のひとつ「**里山・田舎暮らし物産展**」では、房総・九十九里・北総台地の特産品や里山が生み出す工芸品とエコ商品で自然の恵みを味わう・楽しむことができます。

「**えこスクールライフで新しい未来**」では、学生が自らの環境活動を紹介します。

恒例になっています、**エコクイズラリー**や、正面玄関前でのエコカー展示・試乗があります。
今年は、地球温暖化と生物多様性の特設ゾーンを設けるのも特長でしょうか。

昨年好評でした**缶つぶし世界記録挑戦大会 in エコメッセちば**もありますので、ご参加ください。
会場内の**エコステージ**では、学校、企業、市民団体の楽しい発表やエコクイズラリー抽せんも行います。

これも恒例となってきました二つの併催事業が同じ国際会議場の 2 階会議室で行われます。
千葉県地球温暖化防止活動センターと千葉県で主催する「STOP！！地球温暖化 in エコメッセ２００９～地球温暖化を考え、行動するー温暖化

による氷河の融解―～」では、アルピニストの**野口健氏の講演**があり、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉による三重奏演奏も予定されていて楽しみな午後です。

午前には千葉県経済協議会、千葉県公害防止財団、千葉県環境保全協議会が実行委員会を組んで実施する環境フォーラム「私たちの手で守り継ぎたい青い地球緑のちば―**企業と環境配慮活動**―」があります。「コスモ石油製油所における里山保全活動」「物流企業センコーによるエコ活動」など事例発表を聞くのも楽しみです。

このように**9 月 6 日(日)**は、1 日幕張メッセで楽しんで参加いただけることと思いますので、みなさまのご参加をお待ちしています！！

県と NPO の協働事業
「平成 21 年度環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業」が始まりました

趣旨：「環境学習コーディネーター人材育成・活用検討事業」は、千葉県から NPO と行政が協働で取り組む事業として、県からテーマが出され、「環境パートナーシップちば」、「ＮＰＯ法人千葉自然学校」、「ＧＯＮＥＴ」の３団体が協働で受託しました。事業期間は、平成２１年４月１日から２２年３月３１日です。

平成 18 年、市民団体が主となり県内各地で開催された環境タウンミーティングから、環境学習基本方針をつくろう会と県との協働作業により、平成 19 年には新しい千葉県環境学習基本方針が策定されました。その環境タウンミーティングのなかで、環境学習コーディネーターの必要性が多くの方から言及されました。その結果、千葉県環境学習基本方針に、環境学習をより推進するためには、「学ぶ人」と「学びを支援する人」をつなぐ「環境学習コーディネーター」の存在が重要であり、早急に取り組むべき課題であると明記されました。

事業の目標は、①コーディネーターの役割の明確化とそれを担うのに必要な能力を養成するための講座のあり方を検討し、②県へ環境学習コーディネーターの育成と活用を推進するための事業提案を行います。③さらに、コーディネートに必要な情報を収集し「環境学習コーディネーター必携ハンドブック」を作成します。④県は、この提案の内容を受けて今後の事業として検討します。

千葉県内の環境保全活動・環境学習のリーダーの方 21 名に参加を呼びかけて、ワークショップを開催し、その討議を通して事業の目標を達成するために実施しています。この市民・行政と協働で行うワークショップの対話と交流の中で、環境学習コーディネーターのネットワークの基礎ができることを期待しています。

◆　スケジュール

①県内の市民団体、企業、学校、行政を対象とした環境学習コーディネーターに関するアンケート調査（終了）

②ワークショップ

第１回ＷＳ　環境学習とは？環境コーディネーターとは？（6月１１日）
※成果目標に併せて３班編成で企画案を作成する。

第 2 回 WS　育成講座の企画（7 月 6 日 7 日）

第 3 回 WS　環境学習コーディネーターの推進システム（10 月 2 日）

第 4 回 WS　環境学習コーディネーターハンドブック（11 月 6 日）

第 5 回　報告会（平成 22 年 3 月 12 日）

《6 月は環境月間です。各地でイベントが開催されました。》

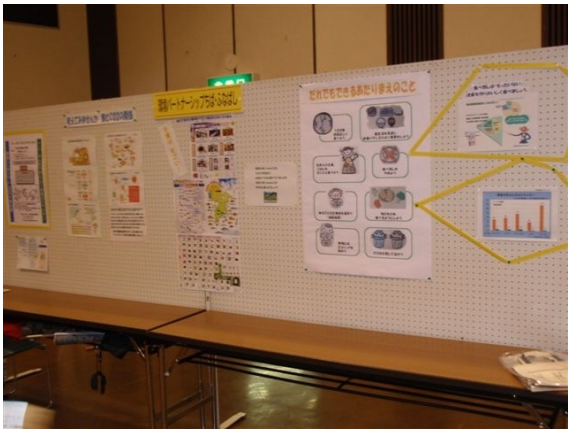
笹にきらめく短冊に願いを込めて
―第 12 回ふなばし環境フェア―

環境パートナーシップちば・ふなばし　大西 優子

ふなばし環境フェアは、市民、事業者、行政の４８団体で実行委員会を構成し、6月6日（土）船橋市中央公民館で開催されました。

「みんなで取組むエコ活動」をテーマに、参加団体の活動のパネル展示（団体で育てた草花の野草の配布も）、こどもイベント広場（自然の素材やガラ

ス牛乳パックを使った工作)、地球温暖化ブース（団体の活動展示・省エネクイズ・電気実験コーナーなど)、環境へのメッセージを書いた色鮮やかな短冊の笹飾り（寄せられた短冊３００枚)、デニムの耳を利用したリサイクルドレスや「わたしのエコ作品」展示、クイズラリー、ミニシアターなどがあり、雨にもかかわらず約４０００人の来場者がありました。



「環パちば・ふなばし」では地球温暖化ブースに、「食とＣＯ2」をテーマのパネルと環境シンポジウム２００９千葉会議のポスターを展示しました。パネルの張り付けは昨年から環境フェアに参加している高等学校の生徒さんに手伝ってもらいましたが、若いセンスに感心しました。

短冊に寄せられた願いや誓いは、「省エネや節水に取り組む、ごみを減らす、分別してリサイクルに協力する、緑の環境を大切にして自然を守り育てよう、限りある資源を大切に、マイバッグを持って買い物に、車もできるだけ使わないように、地球温暖化を止めるために自分のできることを始めよう」などが寄せられました。

こどもイベント広場では、子どもたちが工作に取り組んでいる姿は真剣そのものでした。楽しく作ったが、自分では満足のゆくでき栄えにはならなかった感想もありました。数年続いているので、リピーターもいるようでした。

今年のふなばし環境フェアのポスターは参加団体の高校生が描いた、自然との共生の中で白いドレスの妊婦さんが手にした地球を愛(いと)おしそうに見ている絵で大変好評でした。また、高等学校の参加があり、ビオトープのすばらしさを来場者へ熱心にアピールしていましたが、とても自信にあふれ清々しいものでした。学校同士や環境保護団体との交流もできたようで、今後の活躍が期待されます。

ふなばし環境フェアでは、参加団体がどんな活動をしているかの「参加団体ガイドブック」を作成し、環境学習などにも利用できるよう小中学校や市の公共施設にも配布しています。

松戸での省エネ実践講座報告

アースコン・マツド　石川 好隆

６月の環境月間行事として、松戸市では３つのイベント（だより 67 号参照)が行われましたが、そのうちの**第１回省エネ実践講座**(6 月 22 日開催）についてご報告します。

アースコン・マツドは、松戸市環境計画課減ＣＯ２担当室との協同事業に昨年から参画しており、今年度も９つの講座で、２２日間＋αの行事に参加する予定です。

今回この講座を開催するにあたって、受講者が興味を引くような見学コースを取り入れた講座にすれば、より多くの人が受講してくれるのではないかと考え、「ちば野菊の里浄水場（平成１９年１０月完成)」見学を取り入れました。

結果として、受講者 18 名、スタッフ 13 名、減 CO2 担当室 2 名で開催することができました。この浄水場は利根川水系江戸川の水を取り込み、安全で良質な水を松戸市の他に市川市、船橋市の一部にも供給する施設で、高度浄水処理設備(現在給水能力 60,000 ㎥/日)が導入されたもので、見学者一同小雨の中を熱心に見学していました。

その後の省エネ講座では、地球温暖化と暮らしの中の省エネルギーについて勉強しました。

１．家庭から排出される CO2 発生量
２．家庭でできる省エネは
３．照明器具としての、白熱球と電球型蛍光ランプ及び LED 型電球との比較体験とコスト計算
４．エコライフシートまつど（環境家計簿）の説明と領収書からの記入体験及びその効果の解説

最後に参加者が、地球に優しい行動宣言を減 CO2 担当室に登録し、この講座を終了しました。

エコフェア いちはら

今年度エコフェアいちはら(第 16 回目)は、6 月 27 日(土)10 時～15 時、主として市原市市民会館および市役所駐車場で行われました。今年のテーマは「いちはらエコ大作戦」で未来は変わる、～みんなで参加して美しいいちはらまちづくり～というものです。主な催し物は、出展団体の展示・実演で、３６団体が参加しました。市民団体系では、市原青年会議所、日本おもちゃ病院協会、市原市川をきれいにする会、市原トンボ池の会、市原ネイチャークラブ、いちはら里山クラブ、協働のいちはら・まちづくり会議、五井婦人会、市津・ちはら台自然楽校など。生活協働組合系では、パルシステム千葉、生活クラブ生活協同組合、生活協同組合ちばコープ。企業系では、昭和電工エレクトロニクス、コスモ石油、旭硝子、ライオン、丸善石油、イトーヨーカ堂、古河電工、市原エコセメント、出光興産、東京電力など多数。行政系では、県環境財団、県環境研究センター、環境監視センター、自然保護班、地球温暖化対策班、県地球温暖化防止センターなどでした。

●地産地消コーナーでは、４団体が参加し、市原市産の農産物で作った加工品を販売して、フード・マイレージの視点で環境にやさしいことを強調していました。●工場見学バスツアーは、バスで三井製糖株式会社を見学し、参加者は 41 名でした。

フリーマーケットは、出展数は 177、募集数の 9 割に達していました。出展料は 500 円で全額が県環境財団、環境再生基金への募金となりました。●低公害車の展示は、燃料電池車、天然ガス車の展示・試乗会が行われ、希望者の列が印象的でした。●スタンプラリーを終えた方には記念品として市原市産の米、野菜、ジャガイモなどが配布されました。ちなみに、当環境パートナーシップちばは、実行委員会のメンバーとして企画等にも参画してきました。

第 6 回里山ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ/里山ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ報告

標題のシンポジウムが、2009 年5月 17 日(日)に佐倉市志津コミュニティセンターで開かれました。主催は里山シンポジウム実行委員会、千葉県、佐倉市、敬愛大学、（社）千葉県緑化推進委員会、ちば里山センターで、今年度のテーマは「里山と食と水と木材」。

この公式報告は「里山シンポジウム実行委員会 HP」に掲載されていますので、ここでは一般参加者としての率直な感想や意見を書かせていただきます。

シンポの日は小雨模様でしたが、上述の HP では来場者は 300 人とのこと。

プログラムは、前半はまず活動紹介として「佐倉市畔田の取り組み：（財）佐倉緑の銀行の小野由美子氏」、次に基調講演として「里山里海サブグローバル生態系評価について：千葉県立中央博物館の中村俊彦氏」。後半はパネルディスカッションで、「里山の食料・水・木材」をテーマに、パネラーは田中素子氏（旭鶴（酒造会社）の杜氏）、嶋津暉之氏（水源開発問題全国連絡会　共同代表）、伊藤道男氏（千葉県農林水産部森林課長）、コーディネイターは吉田正人氏（江戸川大学社会学部教授）。

まず、これだけの大きなイベントを開催された主催者の労に、お礼申し上げます。

しかし、今後のよりよい運営のために、あえて辛口な感想や意見を述べさせていただくことをお許しください。

まず、音響の問題か、若干、講演者の声が聞き取りにくかったように感じました。

基調講演では、里山問題への理論的アプローチ法の紹介で、新しい知見を得ることができました。次段階では、この理論を現実の千葉県で生じている里山問題にどのように適用するかについての議論がなされることを期待します。

パネルディスカッションでは、「食・水・木材」の各専門分野における問題点の解説がなされた。次回のディスカッションがあるとすれば、今回の議論を踏まえた千葉県の里山問題の現状を示していただき、それらの解決策を総合的に議論していただきたいと思います。

なお今回のイベントは各分科会の活動の積み上げの上にあると思うので、それらの活動を総括するような情報が欲しいと思いました。

私の目的のもう一つは、里山保全活動に取り組む団体の現状を知ることにあったが、これについてはパンフやパネル紹介で大いに情報を増やすことができたので感謝しています。

(環パちば会員　牧内 弘明 記)

第 1 回花見川ワクワク歩き隊報告

地域を良く知ることで花見川周辺や印旛沼への関心を高めるために、東京湾から印旛沼まで楽しく歩き、面白いことや宝ものを発見して地域を学ぼうという会です。環パちば主催で第 1 回目の今回は、6 月 1 日(月)に東京湾(美浜大橋) と新川大橋の 2 地点からスタート。花島公園で合流してお互いに交流しつつ、付近の地域の歴史・文化に詳しい八千代市郷土歴史研究会の牧野氏のお話を伺いました。今回の成果は、一昨年度に環パちばが作成した、「東京湾から印旛沼まで わたしのエコウォーキングマップ」の改訂に反映させる予定です。

【東京湾から花島公園まで(下流隊)】

下流隊には 4 名が参加。上流隊に比べて距離も長く、流域に点在する多くの名所旧跡を巡ることにしたため、自転車で移動しました。

10 時に美浜大橋下に集合し、サイクリングロードを上流に向かって出発。まずは国道 14 号近くの**水難の碑**で花見川掘削工事の犠牲者を悼み、続いて**検見川神社**を参詣(さんけい)しました。創祀(そうし)は平安時代前期にまでさかのぼり、三柱の神が祀(まつ)られている由緒ある神社です。境内では「君が代」に出てくる「さざれ石」などを見学しました。

一旦浪花橋で対岸に渡り、**武石真蔵院**を参詣しました。本堂前には 1293 年に武石胤盛(たねもり)の母の菩提を追善供養するために建立された板碑(千葉市指定文化財)がありました。次に汐留橋を渡り、**畑子安神社**を訪問しました。口伝によれば 800 年ころに創設、10 世紀初期に奇稲田姫命を勧請して子安大明神として祀ったといわれています。

再び汐留橋を渡り、田んぼの中で**自噴井**を見学していたところ、思いがけず野生のキジを発見しました。続いて**長胤寺**(ちょういんじ)を訪ねました。この寺院は武石長胤が 1262 年に自らの館として創建したと伝えられております。立派な本堂前には「夫婦梅」とそれにちなむ句碑「浅からぬ 夫婦ぶりなり 月と梅」があります。次に**諏訪神社**を参詣しました。小高い丘の上に位置しており、境内からの眺望はすばらしい。本殿は 1628 年建立、1836 年再建と伝えられ、本殿と拝殿には江戸末期に彫られた華麗な彫刻が施されております。

その後、趣を変えて**農産物の直売所**をのぞき、亥鼻橋近くの**豆腐屋**と**煎餅屋**(せんべい)に立ち寄り、最後に天戸の**福寿院**を訪ねました。創建は 1490 年代とみられ、境内のしだれ桜は、徳川家康が市内金光院に植えた「御手掛けの桜」を株分けしたものだそうです。そして、再び花見川に戻り、上流隊との合流場所である花島公園に向かいました。

検見川、畑、武石、天戸などの花見川流域には貝塚や遺跡があり、古代から人が住んでいたといわれています。神社仏閣もその創建は古く、もっと地域の歴史や文化について学習してみたいとの思いを強くしました。

【新川大橋から花島公園まで(上流隊)】

上流隊は、講師の牧野氏はじめ 6 名で、新川にかかる新川大橋から約 5 ㎞先の花島橋に向け歩きました。スタートしたところに、「わたしのエコウォーキングマップ」作成に協力いただいた郷土歴史研究会の関和さんに偶然お会いしました。2 年前に作成したマップを現在も検証しながら歩いていることに驚かれていました。

16 号近くのマンションが立ち並ぶそばに、**厳島神社**があり、今でもお供えをする人があるようです。また、対岸の丘の上には**上ノ山古墳**があったそうですが、今では住宅が立ち並んでいます。牧野さんからいただいた資料の「三峰山道中記図会」明治 4 年の地図からは、大和田機場のあたりの様子が描かれ、かつての大和田宿の様子が読み取れそうです。機場からはポンプ点検のためか濁水が流れていて、2 時間近く歩いて花島公園につきましたが、水の色は濁水のままでした。

柏井橋のあたりには、花見川掘削の川堀り人足の墓が祭られているそうです。主に庄内藩から多くの人が参加して命を落とされたそうです。花見川と山形県庄内地方との交流をいつか実行したいものです。

ゴールの花島公園には、鎌倉時代の開山とされる**天福寺**（花島観音）があり、足のお守りということで、草履を山門につるしてありました。

上流隊と下流隊はこの公園で合流し、午後には、上流隊・下流隊の簡単な報告と牧野氏による印旛沼の河岸の話をお聞きしました。牧野氏の話は八千代市内や印旛沼など詳細な調査を通しての話で、楽しく時間が過ぎました。

★6月環境パートナーシップエコサロン★
使い捨てのライフスタイルを変える！
―ちばレジ袋削減エコスタイル―

日時：6月24日(水)　午後6時30分～8時30分
会場：千葉市民活動センター　会議室
話題提供：堀津 誠 氏(千葉県環境生活部資源循環推進課)

ちばレジエコキャラクター
「モラワン」

6月のエコサロンでは、千葉県資源循環推進課 堀津氏を迎え、県の3R(Reduce、Reuse、Recycle)への取組についてお話いただきました。以下は話題提供者に「レジ袋削減」に焦点を絞って解説いただいたものです。

大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムを資源循環型の社会に変換していくため、ごみを減らして、ものを大切にするライフスタイルに変える必要があります。県では、全県的なレジ袋の削減の取組を「ちばレジ袋削減エコスタイル」(通称:ちばレジエコ)として、推し進めています。

【レジ袋削減の効果】

■地球温暖化の抑制

現在、1年間に県全体で使うレジ袋はおよそ17億万枚（県民一人当たり年間300枚）。すべてごみとして焼却された場合、5万ﾄﾝのCO2が出る計算になります。これだけのCO2を吸収するには、約379万本の木（東京ドームのおよそ1200個分の面積に相当する森林）が必要です。

■石油資源の消費抑制

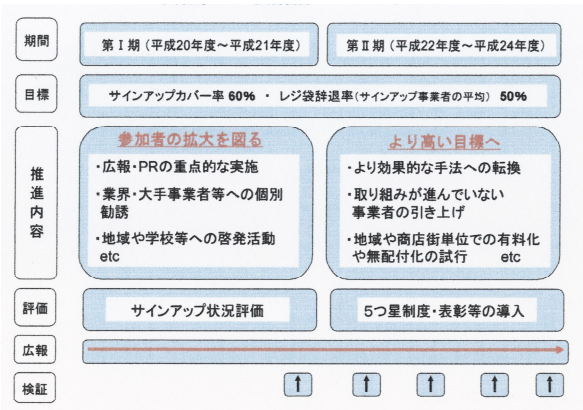
千葉県内で1年間に消費するレジ袋を生産するために、石油約3万kℓ が消費される計算になります。これは、ドラム缶(200ℓ)換算で15万本分。小学校の25mプール約80杯分です。

■ごみ処理費用の削減

■自然界への影響の阻止

不適正に捨てられたレジ袋は、自然還元されず半永久的に存続し続けます。 動物が飲み込む被害が増加しています。国内では奈良公演の鹿や、海外では鯨やイルカやウミガメなどが、レジ袋を食べて死亡するケースが増えています。

【「ちばレジエコ」の取り組み】



千葉県レジ袋削減ロードマップ

県では、消費者・事業者・行政で構成する「千葉県レジ袋削減検討会議」の検討結果に基づき、レジ袋の使用削減のための「ちばレジエコ」を推し進め、県民の皆さんや事業者の積極的な参加をお願いしています。

【あなたも積極的な参加を】

一人ひとりの取り組みが、大きな成果につながります。あなたも「ちばレジエコ」に参加しませんか？

■簡単にできる！こんなコト

○マイバッグをいつも持ち歩く
○もらったレジ袋は、繰り返し使う
○レジ袋を断るとポイントがたまり、値引きしてもらえる制度を利用するなど

■ちばレジエコサポーター

消費者を対象に「ちばレジエコサポーター」を募集しています。自分の行うレジ袋削減のための取り組みを宣言し、実行して参加小売店を応援しましょう。

■小売店のサインアップ

県内のレジ袋を配布するすべての小売店などを対象に、県と小売店が簡易な協定を　締結します（サインアップ方式）。 現在、県では、レジ袋削減に取り組んでいただける「ちばレジエコサポーター」や「小売店」などを募集しています。申込方法など、詳しくはホームページをご覧になるか、お問い合わせください。

《登録数》（21年6月現在）

○ちばレジエコサポータ→5008人
○ｻｲﾝｱｯﾌﾟ小売店→6社2団体　2088店舗

問い合わせ　県資源循環推進課
Tel 043-223-2760 Fax 043-221-3970
HP「ちばレジエコ」で検索

【「ちば食べ残し削減エコスタイル」にも取り組んでいきます】

我が国で、食べられるにもかかわらず捨てられている「食品ロス」と呼ばれるものは、年間約500万～900万トンと推計されており、1人1日あたりに換算すると100～200グラム（おにぎり1～2個分）になります。

そこで、食品の食べ残し等により家庭や飲食店等から発生している食品廃棄物の削減を図るとともに、県民一人ひとりが資源循環型社会の構築に向けたライフスタイルへと転換していくことを目指し、様々な取組を展開していきます。

団体会員紹介

ワーカーズコレクティブ“風車（ふうしゃ）”

もうゴミは出さない！　使い捨て食器NO！　を広げたい

イベントや職場などで大量に捨てられる紙コップや紙皿、もったいないと思ったことはありませんか。

昨年 12 月に佐倉市でリユース食器レンタルの事業を立ち上げました。

イベントなどに、安全なポリプロピレン製のリユース食器を貸し出し、回収して洗浄し、滅菌乾燥して保管します。これは、全国ネットワークで展開されていて、“ 風車 ” は千葉県で初めての事業所です。

“ 風車 ”は学校に行かない子どもや仕事に出ていない若者の親の会から生まれました。

働くメンバーは、引きこもり体験者やハンディのある人とその親たちそして地域の人たちです。

個人を訓練して型にはめ込んでいくのではなく、病気や障害も含め、その人のありのままが認められ尊重される。そして、今のままでできることを一人ひとりが持ち寄ることで作っていく。そんな職場があったらどんなにいいだろう。――そんな思いから出発しました。

また、“ 風車 ” の経営形態がワーカーズコレクティブであることもが、もう一つの特徴です。

ワーカーズコレクティブとは、生活クラブ生協から生まれた、雇う、雇われるという関係ではなく、メンバー全員が出資し、運営し、労働するという未来型の働き方です。地域で必要とされている仕事を作り出し、働くことで社会的、経済的、精神的自立をめざします。

“ 風車 ”の強みはネットワークの広さであるともいえます。生活クラブはずっと昔から環境問題に取り組み、リターナルびん入りの調味料や牛乳をあたりまえのこととして使っています。生活クラブ、ワーコレ関係、不登校関係、障害者支援団体の関係、さらに、環境団体の仲間入りをさせてもらって、ますます環境問題に本気で取り組もうとワクワクしています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

運営委員会報告

5 月運営委員会議事録

日時：21 年 5 月 21 日(水)　　午後 6：30～
場所：船橋市民活動センタ
協議 ①だより 67 号 68 号について
②花見川わいわい歩き隊
③千葉市エコ体験スクール応募
④エコサロン
⑤千葉市手づくり環境博覧会他
⑥千葉市公民館講座
⑦環境学習コーディネーター事業

6 月運営委員会議事録

日時：21 年 6 月 24 日(水)　　午後 4：00～
場所：千葉市市民活動センター
協議 ①だより 68 号
②HP の件
③いちはらエコフェア
④環境学習コーディネーター事業
WS について
⑤運営委員会後エコサロン
「３R の推進に向けた全県的な普及啓発活動を中心として」

7 月運営委員会議録

日時：21 年 7 月 23 日(木)　　午後 6：00～
場所：船橋市民活動センター
協議 ①だより 68 号 69 号について
②エコメッセ出展内容
③千葉市エコ体験スクール
④花見川わくわく歩き隊
⑤8 月エコサロンについて
⑥千葉市公民館講座
⑦「東京湾から印旛沼まで
～私のエコウォーキングマップ～」作成
⑧NPO の日（12 月 1 日）の事業検討

お知らせ

花見川 宝さがし隊！水しらべ隊！！
日時：8 月 7 日(金)9：30～15：30
場所：花見川、花島コミュニティセンター
募集人員：40 名
対象者：千葉市内の小学 3～6 年生
参加費：無料
主催：千葉市
実施団体：環境パートナーシップちば
問合せ：千葉県環境財団環境推進チーム
Tel 043-246-2181

めだかサミット in よつかいどう
第 11 回全国めだかシンポジウム
四街道大会
テーマ：自然環境を生かすまちづくり
第一日：8 月 8 日(土) 12:30 開場
全体会　13:00～
四街道市文化センター大ホール
記念講演「人と自然の共生」
C・W・ニコル氏(作家)
入場整理券 500 円(高校生以下無料)
分科会　文化センター各会議室(15:30～)
第1　自然環境を生かすまちづくり
第2　めだか研究最前線
第3　子どもの育ちと自然
特別　ホタルと水辺環境・水辺の生物たち
第二日：8 月 9 日(日)
自然観察バスツアー(要申込・参加費別途)
主催：めだかサミット in よつかいどう実行委員会、日本めだかトラスト協会
問合せ・参加申込：
実行委員長（任海）043-432-8701
事務局（原田）043-423-3506

第 39 回環境パートナーシップ
エコサロン
今回は、河川環境を取り上げ、現在、県の河川環境行政を担当され、また幅広い経歴をお持ちの林薫様をお招きし、印旛沼水循環健全化事業、いんば里山歩き隊などの行政の取り組みを紹介していただき、それをもとに意見交換をします。
日時：8 月 27 日(木) 18:00～
場所：千葉市民活動センター　会議室
話題提供：林　薫　氏
千葉県県土整備部河川環境課
テーマ：印旛沼再生のとりくみ（仮題）
参加費：５００円（資料代）
問合せ：桑波田(YFA03131@nifty.com)
主催：環境パートナーシップちば

エコメッセ 2009in ちば
テーマ：地球温暖化と生物多様性
～エコメッセでくらしを変えよう～
日時：9 月 6 日(日) 10:00～17:00
会場：幕張メッセ　国際会議場
入場：無料
主催：エコメッセ 2009 in ちば実行委員会

第 2 回花見川ワクワク歩き隊
前回は、上流と下流に分けて、川の周辺の歴史や文化のポイントめぐりをしましたが、今回は上流区間に絞り、地域史の専門家をお招きし、更に詳しく歴史･文化を探索します。
日時：9 月 27 日（日）9:30～15:00
場所：新川　「平戸」
集合場所：八千代緑が丘駅（東葉高速鉄道）
参加費：500 円（資料代・保険代含む）
連絡先：牧内（090-7171-8354）
主催：環境パートナーシップちば

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
入会申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　ＦＡＸ　043―246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872　千葉県環境財団
環境技術部　環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		